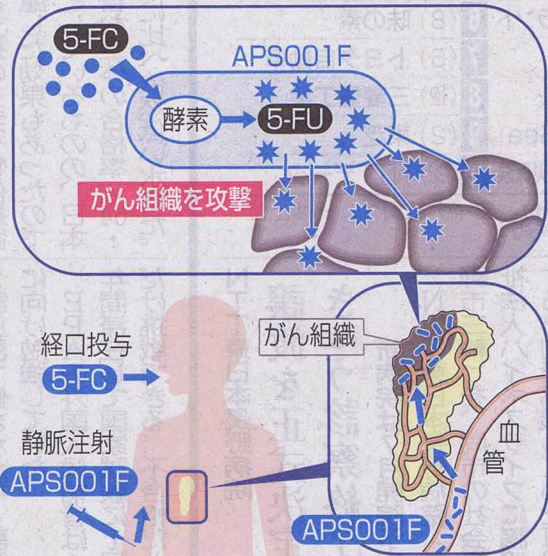


信大発 がん治療 臨床試験順調

ビフィズス菌(APS001F)を使った がん治療法のイメージ



ビフィズス菌薬の運び屋に

信州大医学部（松本市）に研究所を置き、ビフィズス菌を使った新しいがん治療法を研究しているベンチャー企業「アネロファーマ・サイエンス」（東京）は28日、同治療法の臨床試験を米国で始めたと発表した。ビフィズス菌を抗がん剤の「運び屋」とし、副作用が少なく治療効果が高いがん治療法を確立する狙い。既に複数の患者に投与し、トラブルはなく順調に進行中としている。

米で複数患者に投与

がん組織が酸素の少ない「嫌気的環境」にあることに「運び屋」に使うのが特徴。ビフィズス菌を抗がん剤の「運び屋」に使うのが特徴。「嫌気的環境」にあることに「運び屋」に使うのが特徴。ビフィズス菌を抗がん剤の「運び屋」に使うのが特徴。

「5-FU」と呼ぶ抗がん剤になる前段階の物質「5-FU C」と、5-FUを5-FUに変える酵素を作る遺伝子を組み込んだビフィズス菌「APS001F」を患者に投与。ビフィズス菌が集まるがん組

織の内部だけで抗がん剤に転換し、正常組織への副作用を抑え、ピンポイントでがん組織を攻撃する。

同社によると、臨床試験は米中南部のがん専門病院で実施。現在は第1段階の試験で、がんの種類を絞らずに胃や大腸などさまざまな固形がんを対象に2年ほどかけて安全性や効果を検討する。第2段階では、第1段階で効果が高かったがんに絞って投与する。両方の試験で計40〜60人に実施するという。

同社は、動物実験で有効性や安全性を確認し、昨年1月に米食品医薬品局に臨床試験の実施を申請。同年12月に1例目の患者に投与し、現在複数の患者で試験しているという。今後は登録患者を増やすとともに、臨床試験を行う施設も増やす計画だ。

同社の三嶋徹也社長は「順調に登録患者が増えるのを期待している。第1段階をできるだけ早く終わらせ、第2段階に移りたい」としている。